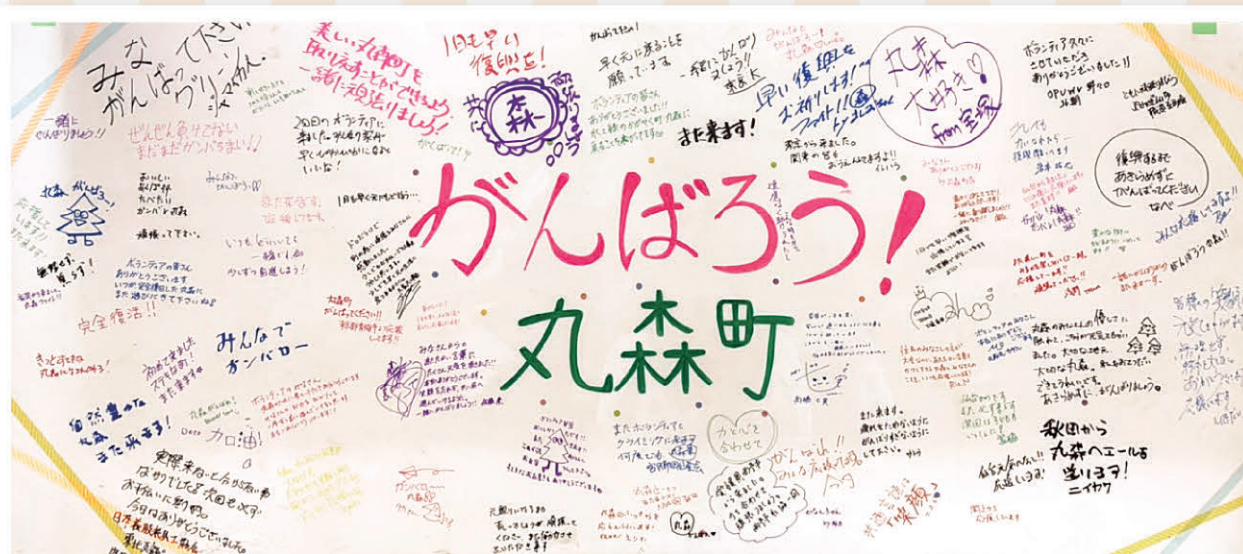


福祉みやぎ

vol.607
2020

1月号



全国の皆様 たくさんのご支援ありがとうございます。
復興へ向けこれからもがんばりますので応援よろしくをお願いします!

CONTENTS (主な内容)

P2 特集 令和元年台風第19号における支援状況
～県内の災害ボランティアセンター支援と
災害派遣福祉チーム(DWAT)の活動報告～

P6 Heart & Works

第32回健康福祉祭和歌山大会
『ねんりんピック紀の国わかやま2019』大会レポート

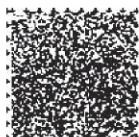
P8 ひとまちこころ

P9 キラリ☆仕事人

P10 こんなことやってます

P11 みやぎいきいきシニアだより

P12 県社協掲示板



令和元年台風第19号における支援状況

～県内の災害ボランティアセンター支援～

令和元年台風第19号において被災された皆さまに、心よりお見舞い申しあげるとともに、全国からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

発災後、本会では宮城県、NPO法人みやぎ災害救援ボランティアセンターとともに宮城県災害ボランティアセンターを設置し、被災各地の災害ボランティアセンターの運営支援を行ってまいりました。また、県内の避難所等へ災害派遣福祉チーム(DWAT)を派遣し、避難所等へ避難した高齢者や障害者などの支援が必要な方々から、課題の早期発見に努め環境改善等の対応を行いました。今号ではその支援状況について報告します。

宮城県内の被害状況、避難所開設、避難者の状況
(令和元年12月6日現在)

死者・行方不明者数	死者:19人,行方不明者:2人
住宅被害	全壊: 288棟
	半壊: 2,836棟
	一部破損: 2,465棟
	床上浸水: 1,908棟
	床下浸水: 12,668棟
避難所数	5箇所
避難者数	193人

台風第19号による広域被害

令和元年10月12日から翌13日にかけて台風第19号が通過。河川の堤防等の決壊等が相次ぎ、宮城県内に甚大な被害をもたらしました。宮城県内35市町村の全てに災害救助法が適用され、死

者・行方不明者は併せて21人、住宅被害は20,000件以上発生するなど広域な被害となりました。

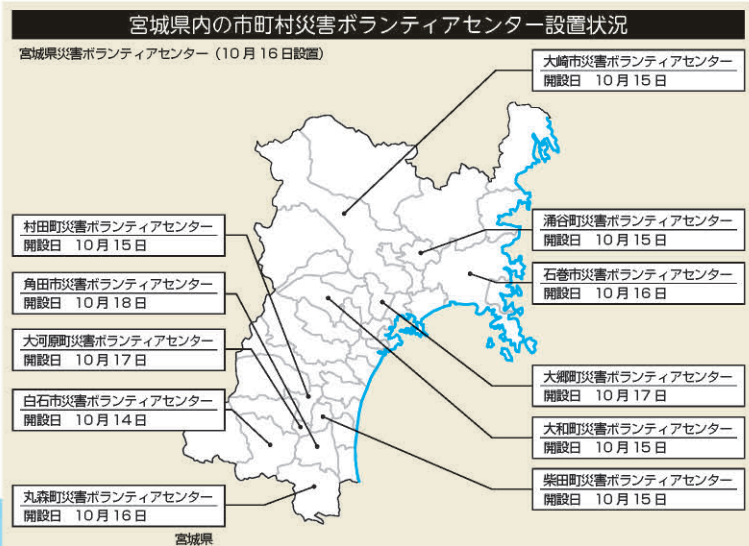
過去に全国で発生した台風被害と比較し、ライフラインや交通網の寸断の影響に加え、多くの稲わらが復旧・復興の妨げとなったばかりか、視覚的にも被災者を追い詰め「今後の生活に見通しが立たない」「どのように片づければ良いのか」など、生活に大きな不安を与えることとなりました。

災害ボランティアセンターの設置と運営支援

これらの状況から、被災した人々の生活をサポートし、一刻も早く安心した生活を取り戻すため、10月16日に宮城県災害ボランティアセンター(以下、県災害ボラセン)を設置するとともに、宮城県内の市町では社会福祉協議会(以下、社協)が中心となり、災害ボランティアセンター(以下、災害ボラセン)を設置しました。

県内35市町のうち11市町(通常ボラセンでの対応は除く)に災害ボラセンが立ちあげられ、災害に起因す

る被災者の「生活不安」や「福祉課題」の解決のため、ボランティア活動者を募り、困りごととボランティアをつなぐ取組を進めてきました。



災害ボランティアの力

今回の災害支援では、県内はもとより日本全国から、学生や高齢の方まで2万2千人を超えるボランティアが駆けつけ、復興へ向け被災地により添っ



た様々な活動に取組んでいただきました。 (令和元年12月10日現在)。

主な活動内容は泥かきや家屋の清掃、床板剥がしのほか、家財の運びだし等。さらには避難所等の環境整備や炊き出し、マッサージなど、被災地のニーズにあわせて様々な支援が展開されました。

また、各市町の災害ボラセンでは、被災者のニーズ調査等を通じて得た情報などをもとに専門職等の機関につなぐなど、支援を必要とする人の声を取りこぼさないよう進められました。

そして何よりも、被災者にとって、ボランティアの方々の力によって、少しずつ片付いていく家屋や、一元に戻りつつある風景を眺めることが、明日への見通しの一助となり、希望を与えるものとなりました。



災害VCにおけるボランティア活動者数
(令和元年12月10日時点)

白石市VC	535人	柴田町VC	432人
大崎市VC	2,242人	石巻市VC	987人
涌谷町VC	371人	丸森町VC	13,715人
大和町VC	495人	大河原町VC	36人
村田町VC	87人	大郷町VC	2,599人
角田市VC	935人		
合計		22,434人	

他機関との 連携・協働による支援

災害ボラセンの運営支援は、宮城県内の市町村社会福祉協議会、北海道・東北ブロック、四国・中国ブロックを中心とした県外の社会福祉協議会、全国社会福祉協議会、災害ボランティア支援活動プロジェクト会議、NPO、ボランティア団体、企業等多くの関係機関と連携して行ってきました。

被災者が抱える複雑な困りごとを受けとめるためには、単一の機関だけでは対応が難しい場合も多く、多機関の強みを活かした連携が重要です。県災害ボラセンでは、復旧の進

捗等を勘案しながら、NPO、弁護士会等の他団体、他機関等を交え「県災害ボランティアセンター支援連絡会議」を定期的に開催し情報共有に努めてまいりました。行政や法律専門職による生活再建に向けた制度情報提供、医療専門職による精神的ケア、企業等による支援物資の提供など、分野を越えたさまざまな関係団体が連携することで、被災者のニーズに応じた多様な支援が可能となります。

災害時のいざという時にこれらの協力関係を活かすためにも、平時時から多機関との連携関係を構築して備えておくことの必要性を改めて認識する機会となりました。



これからの被災者支援

今回の災害では、多くの被災者が住み慣れた家や地域を離れ、みなし仮設住宅やプレハブ仮設住宅に入居し、新たな生活を始めることとなります。

今後は、仮設住宅に入居した被災者の孤立防止等のために見守り支援や、日常生活上の相談を行うとともに、被災者を関係支援機関へつなぐ等の支援に軸足が移ります。

長期的な視点を持ち、被災者の困りごとを丸ごと受けとめて対応していくためには、災害を契機に住民や専門職等の関係団体を含めた地域のネットワークを再構築する視点が大切であると考えます。

本会では今後も被災者が抱える課題を把握し、市町村社協や関係機関と連携しながら、県内で多様な支え合い活動が展開されるよう、引き続き支援活動を進めていきたいと考えます。



令和元年台風第19号における支援状況

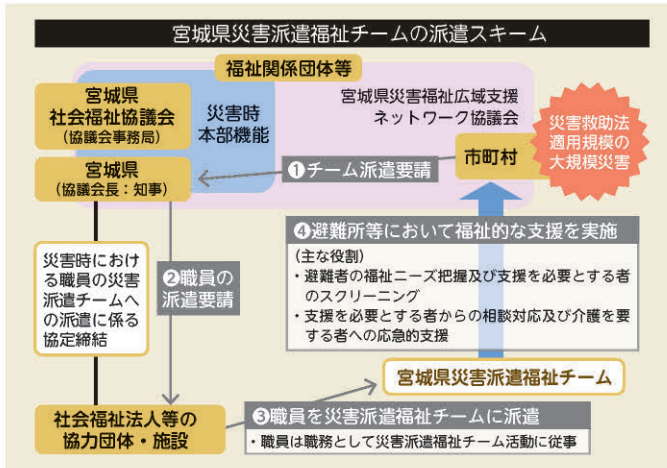
「災害派遣福祉チーム（DWT）の活動報告」

災害派遣福祉チーム設立の経緯

東日本大震災以降、平成30年7月の西日本豪雨災害など、自然災害が多く発生し、高齢者や子ども・妊産婦等、地域の災害時要配慮者が、避難所等において、長期間の避難生活を余儀なくされ、必要な支援が行われない結果、生活機能の低下や介護度の重度化などの二次被害が生じるなど、課題も多い状況があります。

こうしたなかで宮城県では、支援が必要な方々に対して緊急的に対応を行えるよう、県、県内35市町村、県社会福祉協議会、17の福祉関係機関等による宮城県災害福祉広域支援ネットワーク協議会（以下、ネットワーク協議会）を平成29年7月に設置しました。

ネットワーク協議会では災害時要配慮者が、避難生活終了後、安定的な



日常生活へと円滑に移行できるように、避難生活の早期の段階から、その福祉ニーズを的確に把握するとともに、可能な限りそのニーズに対応し、生活機能の維持を支援していく『福祉専門職チームの派遣』体制の構築に向けた活動を行っております。

調査チームの派遣と情報収集

今回の台風第19号において、その被害の大きさから、福祉チームの派遣の必要性を確認するために、調査の役割を持つチーム3班を現地調査に派遣しました。

社会福祉士・介護福祉士といった専門職3人を1チームとして編成し、10月15日、16日に丸森町・角田市、大郷町方面、19日に大崎市へ派遣した結果、避難所を運営する現地の行政判断として、保健師等が対応することになりました。



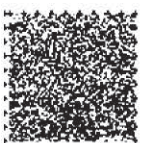
本格派遣と活動内容

10月23日に大崎市からの要請を受け、10月26日から11月11日までの期間を5日間4クルに分け、3人から5人による専門職チームを編成のうえ派遣し活動を開始しました。

避難所において、現地における保健師等と情報共有・連携を密にし次のような活動に取組みました。

- ① 相談ブースの開設、② 子ども用プレイルームの開設、③ 避難者が使用している杖の不具合対応、④ 夜間動線の蛍光灯テープでの改善対応、⑤ サロン活動計画、⑥ 避難所内番地の設定

そのほかにおいても、支援が必要か否かのスクリーニングの実施やアセスメントを適宜行いながら高齢者、障害者の個別ニーズに応じて福祉事務所や介護保険事業所への繋ぎ





などを実施してきました。

災害派遣福祉チーム（DWAAT）の活動にあたって、常に地元の支援者、被災者に敬意を払い、信頼関係を築き、そして、その信頼を人々から組織と組織へつなげることを意識し取組んできました。

今回の派遣チームは11月11日に撤回しましたが、現地で展開されている活動にチーム員が実施してきた支援を結びつける視点が不可欠であることを改めて感じました。

今後に向けて

今回のDWAATの派遣が、ネットワーク協議会の設置以降、初めての派遣活動となりました。

これまで、登録法人の協力体制の構築、派遣員となる人材の確保及び研修を通しての人材育成に取組んできましたが、今回の活動により改めて新たな課題等がたくさん見えてきました。

調査チームの派遣では、避難所、自治体が混乱している状況での調査ということもあり、事前の情報収集や、現地に向く適切な時期を判断する重要性と、平時からの取組として災害派遣福祉チームの周知と理解、更には現地担当者との連絡体制の確立等の必要性など認識することができました。今後しっかりと振り返りを行い検証していきながら更なる体制の整備に尽力したいと考えています。

最後にDWAATの活動は県内の社会福祉法人や職能団体、種別協議会の職員派遣等の協力がなければ活動を展開することはできません。ご協力頂いた施設や法人・関係団体に厚くお礼申し上げますとともに、今後の活動へのご支援についてお願い申し上げます。

全国からのご支援に感謝申し上げます

災害支援金

(令和元年10月～12月10日受付分) 順不同

コープこうべ災害緊急支援基金運営委員会 様
 (福) 北海道社会福祉協議会 様
 東北文化交流親善コミュニティー 様
 (福) 岡山県社会福祉協議会 様
 (福) 広島県社会福祉協議会 様
 (福) 大阪府社会福祉協議会 様
 大阪府市町村社会福祉協議会連合会 様



宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

宮城県地域福祉総合補償制度をご利用下さい

ポイント1

社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。

ポイント2

地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。

ポイント3

団体制度のため、有利な団体割引が適用されます。(一部適用外)

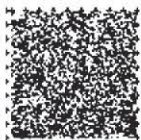
ご不明の点は
お問合せください!

お問合せ

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
 三井住友海上火災保険株式会社
 株式会社オンワード・マエノ

TEL022-225-8476
 TEL022-221-3171
 TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。



ハート アンド ワークス Heart & Works

シニア世代の健康と福祉の祭典

第32回健康福祉祭和歌山大会 『ねんりんピック紀の国わかやま2019』大会レポート

「あふれる情熱はじける笑顔」をテーマに、スポーツ・文化・健康・福祉の総合的な祭典「第32回全国健康福祉祭和歌山大会」（愛称：ねんりんピック紀の国わかやま2019）が、令和元年11月9日から12日までの4日間にわたり、和歌山県21市町を舞台に開催されました。

全国から約一万人の選手が集まり、宮城県からは強豪の115人が18種目の競技に参加しました。

ここでは、世代や地域を超えて交流の絆を広げた大会の様子を紹介します。



いざー紀の国和歌山へ

宮城県選手団は総勢122人（役員7人含む）。総合開会式及び卓球・水泳・ダンススポーツなど18種目の競技に参加するため、11月8日に仙台駅から和歌山県へ向け出発しました。長時間の移動であったため、選手の疲労などが心配されましたが、夜に和歌山県へ到着すると、歓迎ムード一色で迎えられる、宮城県選手団の疲れは一瞬で吹き飛んでしまいました。駅や街中の至るところでは、横断幕やポスター、のぼり等が掲げられ、大会が盛り上げられており、開催地の歴史や文化を選手に伝え、全国から集う選手を温かく歓迎することは、ねんりんピックのおおきな魅力のひとつとなっています。

また開会式においては、盛大なアトラクションが繰り

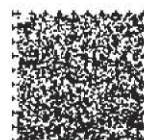
広げられるとともに、今大会では杉子女王殿下のご臨席とお言葉を賜り、より一層選手はやる気と希望に満ち溢れていました。

宮城県チーム 上位入賞続出

宮城県チームは複数の種目において上位入賞を果たしました。

グラウンドゴルフ個人の部、なぎなた個人の部がそれぞれ優勝、水泳個人の部、将棋個人の部でそれぞれ銅メダル、マラソンでは4位入賞と輝かしい成績を残しました。その他の競技においても、メダルや入賞には届かなくとも、選手皆さんは日頃の練習の成果を十分に発揮され堂々たる記録を残されていました。

参加した選手からは「今年初めてねんりんピックに出場したがとても楽しかった」「優勝はできなかったが、とても貴重な経験ができました」との声が聞かれ、参加された選手にとって有意義な大会



となりました。

宮城県選手団員の応援記 シニアアスリートの力の源

和歌山県内各地で競技が行われたねりんピックは、11月の開催でありましたが、連日晴天に恵まれ、20度を超す日もあり少々暑さすら感じられるほどの最高の天候でした。

ねりんピックに出場するアスリートの方は皆さん60歳以上でありましたが、全く年齢を感じさせない選手の姿にはただただ驚かさ



れるばかりでした。その元気の源がどこにあるのかと探しながら観戦し気づいたことは、どの種目でも試合の際には、勝利を目指して「頑張れ、頑張れ」と互いに鼓舞し合い、味方選手同士で支え合い、気持ちよく競技に挑めるよう笑顔で送り出す姿でした。そこには、普段からの努力も含めて互いに認め合う仲間との強い「絆」の存在でした。試合後には勝っても負けても「頑張ったね、良かったよ」と相手選手を労い、勝敗に関係なく、お互い笑顔で称え合っていました。

この仲間との信頼関係、相手を敬うノースサイド精神が元気の源となり、年齢を重ねても長く、そして楽しくスポーツを続けられる根源であると感じました。

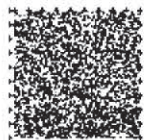
さらに、事前の結団式、大会中ともに宮城県選手団の方々から「台風第19号で被災された方々に少しでも明るいニュースを持ち帰りたい」との声が聞かれ、家族、友人、郷土を思う心がより一層、選手たちの背中を押しているようでした。

また、その姿は和歌山を流れる紀の川のように雄大かつ清々しいものでした。選手の応援のため様々な競技を訪れましたが、結果的にこちらが元気を分け与えて頂いたような、そんな気持ちで終えた4日間でした。

ねりんピック岐阜2020!

来年で33回目を迎えるねりんピックは、岐阜県を舞台に10月31日から開催予定です。「清流に輝け ひろがれ 長寿の輪」をテーマに、選手の皆さんはわかやま大会以上のプレーを魅せてくれることと思います。

来年の岐阜大会でも、宮城県選手団の活躍を期待しています!





安心して相談できる県の窓口があります

～みやぎ男女共同参画相談室～

男女共同参画って 難しそう？

決して難しくありません。男女共同参画は「女性がもつと頑張ること」でも、「男性に負けるな」ということでもありません。男性も女性も誰もが、自分の意思をもって生き生きと暮らせる社会をつくることです。

昔話の桃太郎と言えば、山に芝刈りに行きたいお婆ちゃんがいてもいいし、川で洗濯したいお爺ちゃんがいてもいいわけです。男だから、女だからという枠に振り分けてしまつては、一人ひとりの多様な可能性が見えにくくなつてしまいますよ。男女共同参画は、私たちが生きていく上でとても大切なものだとと言えるでしょう。



そしてそんな毎日の中で生まれてくる悩みや困り事・・・自分で解決できればそれはそれでよい

のですが、なかなかうまくいかないこともあるものです。

相談できる窓口があります



県では誰もが安心して相談出来る窓口「みやぎ男女共同参画相談室」を開設し、みなさんからの相談を受け付けています。

たとえば、パートナーとの関係、DVやデートDV、職場でのセクハラやパワハラ、自分の性別に何か違和感がある、同性に好意をもっていることについて相談したいなど・・・心が疲れていたり、苦しかったりする時は、一本の電話でつながってみませんか。

電話をくださった方の悩みに寄り添いながら、専門の相談員と一緒に考えていきます。場合によっては、さらに専門的な窓口をご案内することもあります

どの窓口も、性別や年齢は問い

相談窓口は4つあります

- 一般相談 Tel: 022-211-2570
女性の相談員が対応します。予約をすれば面接相談もできます。
月曜日から金曜日 8時30分～16時45分 (LGBT相談時間を除く)
- 男性相談 Tel: 022-211-2557
男性の相談員が対応します。
毎週水曜日 正午～17時
- 法律相談 Tel: 022-211-2570
女性の弁護士が面接で対応します。一般相談で予約をしてください。
第4木曜日 13時～16時30分
- LGBT相談 Tel: 022-211-2570
女性の相談員が対応します。ご自身の悩みでも、家族や友人についての相談でもかまいません。
第2、第4火曜日 正午～16時

※どの窓口も、性別に関わらず相談を受け付けています。休日、祝日は行っておりません。



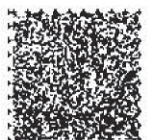
ません。秘密はもちろん守りませんし、匿名でもかまいません。相談は無料です。(電話の通話料はご負担いただきます)

お問い合わせ先 (相談室に関すること)

宮城県共同参画社会推進課

Tel: 022-211-2568

Fax: 022-211-2392



キラリ☆仕事人

このコーナーでは福祉の職場で働くキラリ☆と光る人を紹介します



今号では、
「特定非営利活動法人
パソコン要約筆記 文字の都仙台」で
要約筆記者として働く
福元智美(ふくもとともみ)さん
にお話を伺いました！

現在の仕事の内容を教えてください

セミナーやシンポジウムなどで、司会者や講演者などが話している内容を要約し、パソコンを使って聴覚障害のある方に文字にして伝えるという仕事をしています。

要約筆記には、ペンで文字を書いて伝える手書き要約筆記と、パソコンの文字入力によって伝えるパソコン要約筆記があり、私はパソコンの要約筆記者として活動しています。

手書き、パソコンともに、方法は2つあります。1つは、スクリーンに文字を投影して見ていただく「全体投影」、

もう1つは個人の方のそばで文字をペンで書くあるいはパソコンで入力する「ノートタイプ」です。

全体投影は、聴覚障害者の方にはもちろんのこと、その場にいる不特定多数の方が見ることが出来るものです。一方ノートタイプは、要約筆記を必要と依頼をした個人の方のために書く(入力する)ものです。個人の方のニーズは講座受講や会議出席、交渉、病院の診察など多岐にわたり、あらゆるところで要約筆記者が活動をしています。

この仕事に就いたきっかけを教えてください

いまからちょうど20年前、まだ子どもが小さくて、パソコンで入力をする仕事ができなかつた頃、たまたま新聞でパソコン要約筆記の講習会があることを知り、参加したことがきっかけです。その後、パソコン要約筆記を宮城でも導入しようと思った聴覚障害者の方々と一緒に毎月練習会をするようになりました。

魅力ややりがいを感じる場面を教えてください

普通に生活していたら足を運ぶこと

がないさまざまなイベントやセミナーに赴いたり、新たなことを知る機会に巡り合えることに魅力を感じます。守秘義務があるため難しいところではありますが、要約筆記をしていなければそもそも興味を持つこともなかった場面に立ち会うことができ、見識も広がりますし、勉強にもなります。

がちですが、話を聞きながら、要約しながら入力するため実際にやってみると難しいです。また、さまざまな業界の専門的な用語なども理解する必要があります。スムーズに要約するため事前の準備等も欠かすことはできません。大変なことも多いですが、現場に立つて役に立ったと言ってもらえることはやりがいがあるものなのでぜひ一人でも多くの方に仲間になっていただきたいです。

要約筆記者を目指す人へ一言お願いします

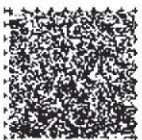
障害者差別解消法もあり、要約筆記の活動をする機会は増えていますが、一般の方が要約筆記を目にする機会はまだまだ少なく、要約筆記者がまだ足りません。もともとと要約筆記者の存在が広く皆さんに知られるようになるのにはいいなと思っております。

要約筆記は、文字を入力するだけと思われ



特定非営利活動団体 パソコン要約筆記 文字の都仙台

平成12年に宮城県で開催された、全国身体障害者スポーツ大会での「音声情報伝達保障」を行うボランティアをきっかけにパソコン要約筆記 文字の都仙台が設立。2010年3月にNPO法人となり活動を継続しています。



[お問い合わせ先]
電話/FAX 022-290-7159
e-mail mojimi@plusvoice.net

(宮城県社協取材)

こんなことやってます!

ここでは、宮城県社協の事業をご紹介します

総合相談センター

【高齢者総合相談】

高齢者とご家族等が抱える保健・福祉・医療・法律などの悩み事や心配事に応じます。弁護士による法律相談(月2回)、精神科医による医療相談(月1回)も行なっています(予約制)。相談は無料、秘密は厳守します。

●このようなくことで悩んでいませんか?

財産・相続等のトラブル、認知症や家族介護、健康管理、福祉サービスなど

お問い合わせ先 022(223)1165

【社会福祉事業の経営相談】

社会福祉事業を営む法人・施設等が適正で安定した経営が保てるように専門相談員(弁護士、公認会計士、社会保険労務士など)が相談に応じます(予約制)。

また、経営者を対象としたセミナーや労務管理などの事務担当者の研修を開催しています。

●このようなくことで悩んでいませんか?

労務管理、安全・衛生管理、会計・税務など

【宮城県福祉サービス第三者評価】

社会福祉事業や提供するサービスの内容について、公正中立な第三者評価機関として、専門的かつ客観的な立場で評価します。

●本会が評価できる事業所

保育所、児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設

お問い合わせ先 022(290)1210



宮城県援護寮

宮城県援護寮は大崎市にある宿泊型自立訓練・自立訓練(生活訓練)施設です。

精神疾患の診断を受けている入院治療の必要がない方に対し、地域で自立した生活が送れるよう、一定期間、生活能力の向上のための支援や生活相談を行っています。

利用者様は寮に宿泊し生活リズムを整えながら、食事、服薬、家事、金銭管理、コミュニケーションなどを身に付けていきます。平日は日中プログラムにて軽運動、調理、創作活動を行っています。また、地域生活に役立つ知識を身に付けるため、月1回は外部講師を招き専門講習会を開催しています。その他、心と体のリハビリテーションとして、余暇外出や趣味支援、地域交流活動として、地域清掃にも取り組んでいます。



▲毎日朝夕に実施する「金銭管理」

【お問い合わせ先】

宮城県援護寮

〒989-1611 大崎市古川旭5-7-21

TEL 0229(23)1513

FAX 0229(23)1562



▲季節の行事「クリスマス会」



▲古川消防署・救急係による「救命講習会」



いないさくらの会

会長 福地 たいこさん (74歳)



今号では、石巻市井内東部で活動している「いないさくらの会」をご紹介します。

さくらの会は、平成10年10月に会長の福地さんが先輩から活動を引き継いだもので、同地区の女性約40人で組織しているそうです。

東日本大震災後は「くるみの会」として、同地区の仮設住宅に入居している方と地元の方が仲良く、楽しく過ごせる住み良い街にしようと力を入れて交流会を開催したそうです。

平成29年から「いないさくらの会」として同地区にある「ふれあい会館」を拠点にお茶会、洗剤作り、ぬりえ、フラダンス、ゲームやそば打ち等の催しを毎月実施しており、また、春の花見、秋には紅葉を観る会を開催しています。

福地会長は「集まって、ワイワイガヤガヤ楽しむ会であり、人と交わって長生きできるようにスタッフが参加の呼びかけを行っているので、一人でも多く地区の方に参加してもらいたい」と親身に話されました。

福地会長は「お節好きだから続け



▲皆さんでフラダンスを踊って楽しむ

られるのです」と言っていました。若い頃は県北部を中心に「仲人」として60組余りの縁を取り持ったそうです。今は仲人としての関わりはなくなりましたが、「当時の方から連絡を頂くと絆の深さを感じます。皆さんに結婚していただきたいですね」と笑みを浮かべて話されました。

福地会長は「長く活動を続けることは大変ですが、宮城いきいき学園石巻校同窓生としての繋がりと会員皆様の強力な支援があつて出来るのです。ありがたいことです。今後は会員も高齢化しているので後継者を育成し、新規参加者を増やして行きたいですね」と話されていました。

シニアのための学びの場

宮城いきいき学園の紹介

「宮城いきいき学園」は、シニアアカレッジとしての学習の場を通して、生きがいと健康づくりを推進するとともに、地域貢献活動への参加と「地域の支え合い」を担う人材の育成を目的に、県内に5校設置しており242名の園生が学んでいます。

学園文化祭で発表

先ごろ学園4校で、それぞれテーマを掲げて文化祭が開催されました。

ステージでは学園生や同窓生による寸劇、合唱、ダンスや演奏などの発表があり、会場は拍手・手拍子や歓声に包まれました。展示スペースでは、日頃の学習活動や趣味などで手掛けた写真、絵画、書や陶芸などの作品が所狭しと展示されました。(石巻校は台風の影響で中止)

生きがい健康づくり地区大会で交流

学園の卒業生が企画する「生きがい健康づくり地区大会」が県内5地区で開催され、それぞれの地区住民が多数参加、ニユースポーツでは心地良い汗を流し、パークゴルフ大会の会場も大いに盛り上がりました。また、オルレコースなどでのウォーキングを楽しみ、参加者は完歩した満足感に浸り、互いに健脚ぶりをたたえ合っていました。

修学旅行で友となる

5月から各校で実施していた修学旅行(1泊2日)は10月の仙南校で全て終わりました。1学年にとつて「出会い・ふれあい」の場であり、これに機にお互いに打解け合つて友となり、学年が一つにまとまっていよいよです。卒業生は一生気軽に語り合える多くの友を得て、入学して良かったと口を揃えて言います。

新しいステージと友との出会いを求め学園の門を叩いてみてはいかがでしょう。



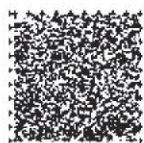
▲クラブ活動



▲趣味の園芸



▲交流レクリエーション





温かい真心をありがとうございます

下記の方々から、本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。
(令和元年12月10日現在)

令和元年10月11日 七十七銀行増田支店チャリティークラシックコンサート参加者一同さまより法人のために
令和元年11月6日 株式会社ブリッジさまより 社会福祉事業のために 20,000円
令和元年12月5日 株式会社ブリッジさまより 社会福祉事業のために 20,000円

2019年度 宮城県社会福祉協議会 「福祉QCサークル活動」発表会開催のご案内

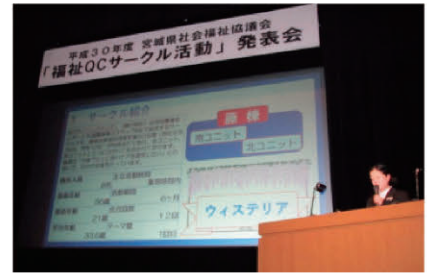
福祉QCサークル活動は、『利用者様に満足いただくサービスの質の向上』『職員間のコミュニケーション活性化による、風通しの良い職場環境の構築と人材育成』『地域に信頼される法人、施設づくり』などを目指す職場内の小グループによる取組です。

一人ひとりが誇りを持てる事業所を目指し、「福祉QC活動」に取り組んでみませんか？地域の皆様、また、医療福祉分野へ興味のある学生の皆様の聴講も大歓迎です！たくさんのご参加をお待ちしております。

日 時：令和2年2月27日(木) 12:45～16:30 (受付開始 12:15) 予定
場 所：仙台銀行ホール イズミティ 21 小ホール
参加費：無料 (当日参加も可能です。)

申し込み・お問い合わせはこちら

宮城県社会福祉協議会 人材育成部研修課
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3
電話 022(225)8479 FAX 022(223)1151



宮城いきいき学園 令和2年4月入学生募集！

生きがいと健康づくりのための必要な知識を身につける学びの場です。

対 象：県内居住の60歳以上の方
場 所：①仙南校 ②大崎校 ③石巻校 ④気仙沼・本吉校 ⑤登米・栗原校
※通学可能であれば、どの学校に申し込んでも結構です。

募集人員：各校40人

学 習 日：年間21日(2学年制)

入学金・受講料等：入学金5,000円 受講料20,000円(年間)

募集期間：令和元年12月1日から令和2年2月29日まで

申 込 書：各市町村の高齢者福祉担当課、生涯学習担当課、社会福祉協議会、および本会ホームページから入手できます。



申し込み・お問い合わせはこちら

宮城県社会福祉協議会 いきがい健康課
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3
電話 022(225)8477 FAX 022(223)1151

